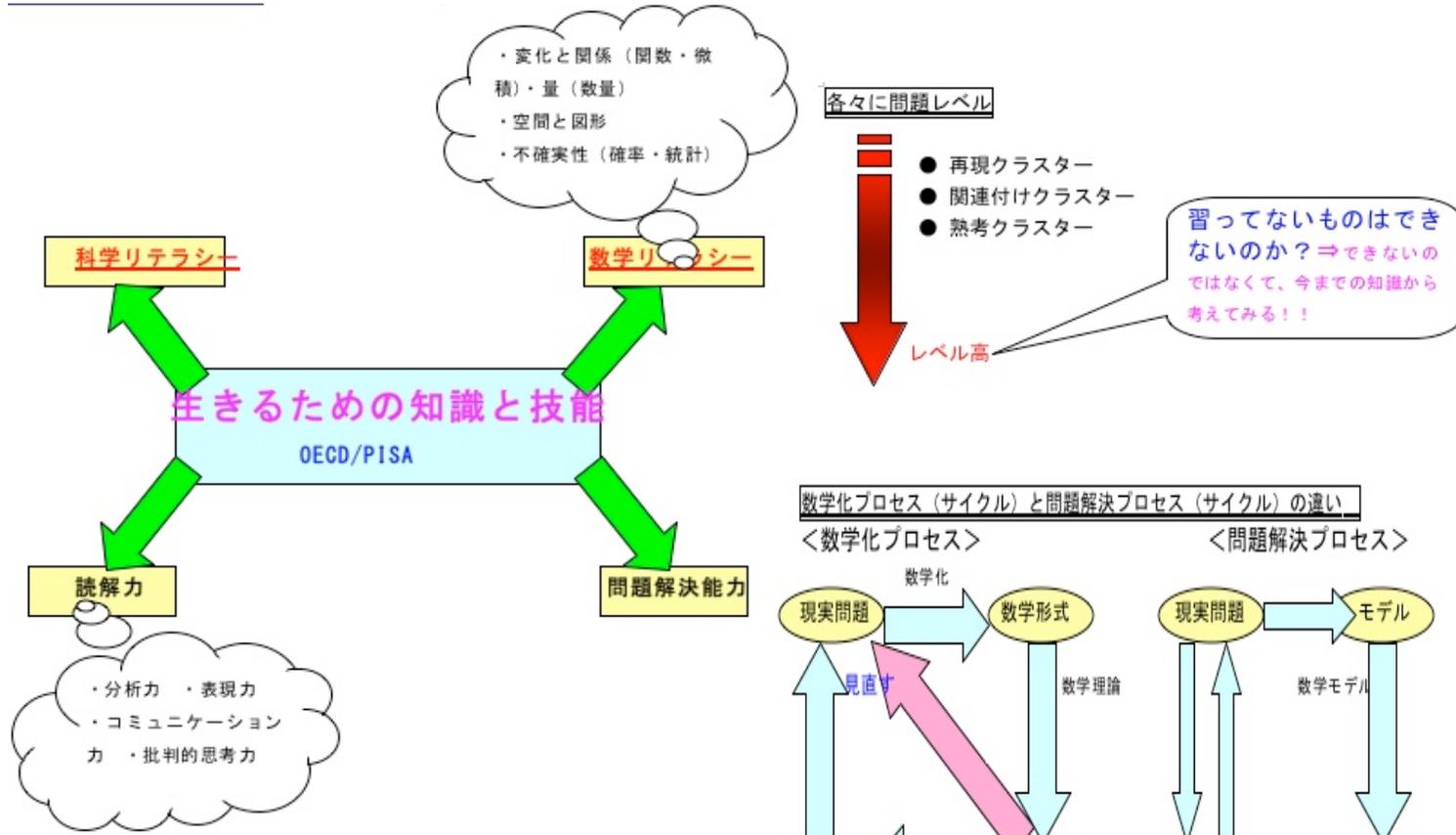


本日の講義の概要 Map



受講して

OECD/PISA の学力調査は、一度受けたことがある。(中略)テストを受けたときは、・・・意義が・・・わからなかったが、今回講義を受けてPISAの意図することがよくわかった。そしてそ

数学単独で考える
科学・数学・読解力も必要な多分野横断的

れは、私の中で衝撃的だった。特に、「習ってないものはできない。」というのが間違っているということと、「読解力」は国語力だけではない、というのが一番驚いた。

今日の講義を受けて、今まで習ってきた知識を使って、未知の問題に挑戦していくことの意義を知った。未知の問題に出くわしたとき、始めから諦めるのではなく、経験を活かして「解」を創造することは不可能ではない。また、「読解力」には4つの力が必要だとわかり、そのような力を総合的につけていかなければならないと知った。

<ひとこと解説>

15歳時にPISA調査を体験したことのある学生の私の第一講をMapでまとめたレポートの一部である。

OECD/PISAの「生きるための知識と技能」を核に、4つのリテラシー領域が構想されていること、数学リテラシーと読解リテラシーのそれぞれの内容が概観できる雲状の吹き出し、さらに数学の4領域（量・空間と図形・変化と関係・不確実性）にはレベル違いの問題タイプ分け、数学単独で解ける数学リテラシーと教科複合の問題解決リテラシーとの違いなどが鳥瞰できる。

「受講して」に書いているように、日本の子どもたちの無答率・反応率の悪さに対する私の講義に対して、この学生にとっては「習ってないものはできない。」と当然視していたのは間違っていたというのが衝撃であったこと、「未知との遭遇」にあたって既知から判断する挑戦をすることなどを述べている。

今後が楽しみな一年生である。

